

きたかみ景観資産 新たに5件認定

平成28年度第3回北上上市景観審議会は1日、本庁舎で行われ、新たに5件の景観資産を認定しました。今回の認定により、きたかみ景観資産は111件となりました。

■新たに認定した景観資産

- ◆No.107 すず湧き出でる佐野公園とぼんぼこ泉
(所在地)下江釣子10地割、12地割地内
(団体名)江釣子7区自治会
- ◆No.108 すずの里に鎮座する 毘沙門堂
(所在地)下江釣子10地割地内
(団体名)江釣子7区自治会
- ◆No.109 追憶の里 蔵屋敷遺跡
(所在地)下江釣子11地割地内
(団体名)江釣子7区自治会
- ◆No.110 郷土芸能伝承の社 滑田八坂神社
(所在地)滑田1地割地内
(団体名)江釣子10区・11区自治会
- ◆No.111 燃えたつ彼岸花につつまれる如意輪寺
(所在地)稲瀬町内門岡68
(団体名)稲瀬町自治協議会



No.111 燃えたつ彼岸花につつまれる如意輪寺



No.110 郷土芸能伝承の社 滑田八坂神社



No.109 追憶の里 蔵屋敷遺跡



No.108 すずの里に鎮座する 毘沙門堂



No.107 すず湧き出でる佐野公園とぼんぼこ泉

国道4号岩手県南地域拡幅整備促進期成同盟会を設立

国道4号岩手県南地域拡幅整備促進期成同盟会設立総会は6日、市内ホテルで行われました。総会には会員など約100人が出席。同盟会規約を決定したほか、会長(高橋敏彦市長)をはじめ11人の役員を選出しました。

同盟会は、花巻、北上、奥州、金ケ崎の3市1町と岩手県南地域の企業などで組織。花巻市から奥州市の区間にお

ける国道4号の4車線化と既存バイパスの整備促進を目的とし、国や関係機関への要望活動に強力に取り組んでいきます。冬期間や緊急時においても安全で安定した走行を確保できる強靱な交通基盤を形成することによって、物流の安定と地域経済の発展、地域間の交流・連携を図ります。

これまで、国道4号の拡幅整備についての要望活動は、

北上市地域貢献活動企業功績表彰式

第9回北上上市地域貢献活動企業功績表彰式は17日、市民交流プラザで開催されました。企業の皆さんが行っているまちづくり活動を広く周知することを目的に、市がまちづくり活動の功績を表彰しているものです。式では地域の貢献活動に顕著な功績があった企業を功績賞、功績賞受賞の活動を5年継続した企業を功績継続賞として表彰。また、活動に参加していただいた企

業に感謝状を贈呈しました。受賞した企業は次の通りです。

功績継続賞

- 一般社団法人岩手県建設業協会北上支部
- 江釣子ショッピングセンター協同組合

功績賞

- 岩手県理容生活衛生同業組合北上支部
- (株)薄衣電解工業
- パンチ工業(株)北上工場
- 丸片機水工業(株)

市内の避難者状況

(1月31日現在)

区市町村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市	大船渡市
世帯	1(0)	11(0)	22(0)	12(0)	7(0)
人数	2(0)	22(0)	36(0)	24(0)	12(0)
区市町村	陸前高田市	宮城県	福島県	合計	
世帯	8(0)	8(0)	8(0)	77(0)	
人数	10(0)	11(0)	19(0)	136(0)	

※()は前月比。市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

各自治体や団体が個別に行ってきた。今後は、官民が協力して要望活動を実施していきます。



会長としてあいさつする高橋敏彦市長

百歳 これからもお元気で

市は、1月に満百歳を迎えた3人に祝い状と記念品を贈り、長寿を祝いました。

菅原サカエさん(小鳥崎)は大正6年1月1日生まれ。18歳で故庄一郎さんと結婚し、子5人、孫12人、ひ孫22人に恵まれています。農家で育ち、結婚後も子育てをしながら庄一郎さんの農業を支えたサカエさん。現在でも、暖かい季節には外で草取りをするほど元気だそうです。最近の楽しみについて聞くと「瀬戸内寂聴さんの本を読むこと」と笑顔で話していました。



祝い状を手にするサカエさん(中央)

昆野キヨ子さん(黒沢尻)は大正6年1月17日生まれ。36歳で故金蔵さんと結婚し、子1人、孫1人に恵まれています。昔は洋裁や花壇の手入れを趣味にしていたというキヨ子さん。現在は歌うことが好きで、民謡などをよく歌っているといいます。長寿のひけつは、好き嫌いなく何でも食べること。100歳を祝福され「ここまで生きるとは思わなかった。うれしい」と話していました。



祝福を受けるキヨ子さん(中央)

佐々木積子さん(下江釣子)は大正6年1月20日生まれ。17歳で故幸一さんと結婚し、子6人、孫16人、ひ孫22人に恵まれています。若いころは幸一さんが営む農業を手伝っていた積子さん。手先が器用で、70・80代の頃はよく編み物や折り紙をしていたそうです。100歳を迎え「体に悪いところはない。これからどれだけ生きるか分からない」と笑顔で話していました。



色紙と花束を手にする積子さん(中央)

環境省では2017年度、飲酒や懇談に熱心になるあまり料理を残しがちになる宴会で、食べ残しをなくすよう呼び掛ける「30・10(さんまるいちまる)運動の普及啓発に取り組むことになった。運動が先行する自治体などと連携して年間632万トン(2013年)に上の食品ゴミの大幅削減につなげようとしている。30・10運動は11年度に松本市でスタート。宴会開始後の30分間に自席で料理を食べ、終了前の10分間も自分の席に戻って再度料理を食べるといったもの。この動きは全国に広がり、環境省によると、16年度に18道県と62市区町で導入されているようだ。

実はこの動きは当市のゴミ問題にとっても、関わりの深いものだと感じている。ゴミ処理は私たちの日常生活に欠かせることのできない行政サービスである。当市の可燃ゴミの焼却処理を行なっているのは岩手中部広域行政組合であり、花巻市、遠野市、西和賀町と当市で構成され、北上市長がその代表となっているものである。先般の新聞報道でご承知の人もおられると思うが、当組合で収集した可燃ゴミにガラスや金属などの大型不燃ごみが混入している事で、その処理費用が予定額を大幅に上回っているのである。本年度だけでその額は1800万円にも上る。その分、他の市民サービスが低下していると考えると、子どもたちの医療費免除の拡大、保育料の軽減、高齢者バス券の拡大、生活道路の舗装などなど、やりたい事はいくつでもあるのに、である。

「30・10運動」や「ゴミ分別の徹底」は私たち市民のちよっとした心掛けで劇的に改善する事のできる課題である。この事をぜひ多くの市民や企業の皆さんに考えていただきたいと願っている。

「30・10」運動って何？

